

のに及べり、その性甚鈍くして海上に浮みながら熟睡して、獵船の近くをも知らずか、れば漁人輕舟に乗りて、鉛を以て抛てこれに中て、多くの人力を併せて捕るなり、さてすぐれて大なるは、海上にて切割て、これを配分するなり、牛魚

圖說

〔採藥使記〕重康曰、奥州オナノ濱ト云フ所ヨリ、ウキ、ト云フ魚アリ、其魚ノ餌袋ヲトリ、乾シテ久病ニ煎ジ用ヒテ功アリト云フ、袋計取テ外ハ皆ナ五穀ノ糞培ニ用ユルト云フ、
先生按ズルニ、ウキ、魚奥州常州ノ海濱多ク是レヲ採ル、其形チ海鱈ノ如ク、小キ物ハ五六寸、
大キナルハ一二丈計、此魚性愚ニシテ死ヲシラズ、漁人熊手ヲ以テ留メ採ルニ、動躍スルコト
ナシ、浮木ノ水面ニ有ガ如シ、故ニ名ヅク、古今類聚常陸國志ニ曰、查魚大者一丈計、小者五六尺、
扁形細鱗背上ニ堅皮アリテ鮫ノ如シ、三四月ノ間出ルト云ヘリ、或曰、大穰海志ニ載スル所ノ
鮪鰐ナルベシ、

〔甲子夜話三十五〕東海ノウキ、ト云ル魚ハ、未ダ形ヲ見ルコトモ無リシガ、辛亥ノ東勤中、長崎ノ宿老徳見茂四郎モ東來シテ、予浦清ガ邸ヲ訪ヒ、水戸侯へ参リテコレヲ食シタルト語リ、又ソノ臣ニ請テ、真圖ヲ得タリトテ示ス、予即其圖ヲ寫ス、附ス小記チウキ、本性ノ文字ナシ、故ニ獻上ニモ假名ニテ認上ル也、魚ノ大サ二間四方、或ハ三四間餘モ有リ、夏取ル魚ナリ、常陸ノ沖ニ夏氣ニ至リウカム、俗ニ浮龜鮫ト云、餘コレヲ林氏ニ語レバ、夏バカリコノ魚ノ採ラル、コト、今マテ知ラザリシガ、ソレニテ解シタリ、年々七月十二月水戸侯ヨリ贈物アルガ、其添品七月ハウキ、十二月ハ鮓糟漬ナリ、是ニテ冬ハウキ、無キコト思ハル、トノ談ナリ、水戸ニテハ、サケニハ、鮓ノ字ヲ用ルコト也、

〔毛吹草〕常陸 水戸 浮龜魚

〔新撰字鏡〕鰐止

比

〔倭名類聚抄十九〕鰐

陸詞切韻云、鰐音遙、和名魚之鳥翼能飛也、